

第2章 ふなばし健やかプラン21(第2次)・ 船橋市自殺対策計画 最終評価

1 最終評価の目的

最終評価は、計画策定時に設定した目標項目の達成状況や関連する取組の状況の評価するとともに、得られた課題等を、次期計画に反映させることを目的としています。

2 ふなばし健やかプラン21(第2次)最終評価

(1) 目標達成状況

① 評価方法について

各目標項目について、以下のとおり、A、B、C、D、Eの5段階で評価を実施しました。

なお、大目標(1)「健康寿命の延伸」については、有意差検定を実施し、統計学的処理に基づき精査の上、総合的に評価しました。

A	目標値に達した
B	目標値に達していないが、改善傾向にある
C	変わらない(増減率※±5%未満)
D	悪化している
E	評価困難

※ 増減率について

ベースライン値から、最終評価時の実績値までの相対的変化率

増減率(%)=(最終評価時の実績値 - ベースライン値)/ベースライン値 × 100

② 目標達成状況の評価

ふなばし健やかプラン21(第2次)後期分野別計画では、大目標、中目標、小目標をあわせて、全76項目(再掲除く)の目標項目を設定し、健康づくりの推進に取り組んできました。

目標達成状況は以下のとおり、全目標76項目のうち、目標値に達した項目が17項目、目標値に達していないが、改善傾向にある項目が18項目となり、合わせて、35項目(46.1%)で改善がみられました。

目標項目の評価状況

策定時のベースライン値と最終評価時の実績値を比較	項目数(再掲除く)
A 目標値に達した	17(22.4%)
B 目標値に達していないが、改善傾向にある	18(23.7%)
C 変わらない	21(27.6%)
D 悪化している	20(26.3%)
E 評価困難	0(0.0%)
合計	76(100.0%)

目標区分ごとの評価状況

目標区分		A		B		C		D		E		合計 (再掲含む)	
		目標値に 達した		目標値に達し ていないが、 改善傾向にある		変わらない		悪化している		評価困難			
		数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)
大目標	(１) 健康寿命の延伸	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
	(２) 主観的健康感の向上	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
	(３) 生活満足度の向上	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	2	100.0%
	全体	1	16.7%	1	16.7%	3	50.0%	1	16.7%	0	0.0%	6	100.0%
中目標	(１) 病気の予防	4	14.8%	5	18.5%	7	25.9%	11	40.7%	0	0.0%	27	100.0%
	①がん	1	11.1%	1	11.1%	1	11.1%	6	66.7%	0	0.0%	9	100.0%
	②循環器疾患	3	27.3%	2	18.2%	4	36.4%	2	18.2%	0	0.0%	11	100.0%
	③糖尿病	0	0.0%	1	16.7%	2	33.3%	3	50.0%	0	0.0%	6	100.0%
	④COPD	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
	(２) 健康を支える基盤 こころの健康・地域力の増進	0	0.0%	2	28.6%	2	28.6%	3	42.9%	0	0.0%	7	100.0%
	全体	4	11.8%	7	20.6%	9	26.5%	14	41.2%	0	0.0%	34	100.0%
分野別小目標	(１) 栄養・食生活	6	40.0%	2	13.3%	3	20.0%	4	26.7%	0	0.0%	15	100.0%
	(２) 身体活動・運動	1	14.3%	1	14.3%	2	28.6%	3	42.9%	0	0.0%	7	100.0%
	(３) 休養	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
	(４) 喫煙・飲酒	1	12.5%	6	75.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%
	(５) 歯・口腔	4	57.1%	2	28.6%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%
	全体	12	30.8%	11	28.2%	9	23.1%	7	17.9%	0	0.0%	39	100.0%

※ %表示の小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%になりません。



キャッチフレーズは
「声かけて 支えあって まちづくり」

すこちゃんは、平成21年度に公募により誕生したふなばし健やかプラン21のマスコットキャラクターです。
ふなばし健やかプランの「ふ」をモチーフに21のツー・ワンのポーズをとっています。

(2) 主な市の施策事業の評価

主な市の施策事業、全55事業のうち、19事業(34.5%)が充実しました。目標区分ごとで見ると、中目標「(1)病気の予防」、「(2)健康を支える基盤 こころの健康・地域力の増進」、分野別小目標「(1)栄養・食生活」、「(3)休養」、「(4)喫煙・飲酒」では、事業が「縮小した」、「変わらない」という評価が半数を超えています。

計画期間中、新型コロナウイルス感染症の流行があり、44事業で事業内容に影響が生じ、事業の中止や事業内容を変更して実施したことも、評価に影響を与えました。

主な市の施策事業の評価状況

		充実した		縮小した		変わらない		合計	
		事業数	(%)	事業数	(%)	事業数	(%)	事業数	(%)
全体		19	34.5%	17	30.9%	19	34.5%	55	100.0%
中目標	(1) 病気の予防	4	44.4%	2	22.2%	3	33.3%	9	100.0%
	(2) 健康を支える基盤 こころの健康・地域力の増進	2	16.7%	3	25.0%	7	58.3%	12	100.0%
分野別 小目標	(1) 栄養・食生活	3	42.9%	1	14.3%	3	42.9%	7	100.0%
	(2) 身体活動・運動	4	50.0%	1	12.5%	3	37.5%	8	100.0%
	(3) 休養	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	3	100.0%
	(4) 喫煙・飲酒	1	12.5%	4	50.0%	3	37.5%	8	100.0%
	(5) 歯・口腔	4	50.0%	4	50.0%	0	0.0%	8	100.0%

※ %表示の小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%になりません。

(3) 評価のまとめと今後の課題

市民、関係機関・団体、行政との協働によるこれまでの健康づくりの取組を通じ、がん(75歳未満)や虚血性心疾患等の生活習慣病の死亡率が減少するなど、健康寿命の延伸へ向け、健康づくりを着実に推進することができました。

一方で、最終評価から、ライフステージ別に懸念される健康課題があります。乳幼児期～青年期では、学童期の肥満の増加や中高生の生活満足度(幸福感)の低下、成人期では、がん検診・特定健康診査受診率の低下やメタボリックシンドローム該当者及び予備群の増加、高齢期では、高齢者の社会活動の低下やロコモティブシンドロームの増加という健康課題が明らかとなりました。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活習慣への影響は無視できず、こころの健康や地域力の増進においては悪化が見られますので引き続き注視が必要です。

以上を踏まえ、今後は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活習慣の変化、社会活動の変化等を踏まえた健康づくりの方策、社会環境整備、ICTの活用等を通じ、健康に関心が薄い者を含めた健康づくりの方策、年齢や性差等も加味した健康づくりの方策を講じる必要があります。

3 船橋市自殺対策計画 最終評価

(1) 数値目標と基本施策ごとの評価指標

① 数値目標の評価

令和2～4(2020～2022)年の自殺死亡率*の3年平均値を11.3以下とすることを数値目標に掲げていましたが、最終評価は15.5となり、策定時のベースライン値より2.1ポイント増加しています。

平成22(2010)年から自殺対策連絡会議を設置し、行政、関係機関・団体と実態把握や情報交換等を通じ、地域におけるネットワークの強化に取り組んできましたが、これまで以上に、行政、関係機関・団体等が一丸となり、各種施策の連携をより深め、自殺対策の更なる推進・強化をする必要があります。

数値目標	ベースライン	目標	最終評価
	平成27～29年 (2015～2017年) 平均値	令和2～4年 (2020～2022年) 平均値	令和2～4年 (2020～2022年) 平均値
自殺死亡率 (人口10万対)	13.4	11.3	15.5

出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」(自殺日・住居地)

② 基本施策ごとの評価指標の評価

基本施策ごとに設定された15項目の評価指標のうち、9項目(60%)が目標を達成し、6項目(40%)が未達成となりました。

評価指標の評価状況

指標	ベースライン		目標	最終評価時		最終評価
	年度	数値		年度	数値	
基本施策１　地域におけるネットワークの強化						
自殺対策連絡会議等を中心としたネットワークの関係機関・団体数の増加	H30	25	50	R5	71	達成
基本施策２　自殺対策を支える人材の育成						
ゲートキーパー研修の市役所全職員受講	H30	未実施	実施	R5	実施	達成
関係団体及び市民を対象としたゲートキーパー研修数の増加	H30	年２回	年４回	R5	年４回	達成
教職員を対象としたゲートキーパー研修の実施	H30	年０回	年１回	R5	年３回	達成
基本施策３　住民への啓発と周知						
自殺予防週間や自殺対策強化月間での取組・啓発機会の拡大	H30	年２回	年５回	R5	年６回	達成
自殺対策に関連する健康講座やメンタルヘルス講座等の講座開催数の増加	H30	年５回	年10回	R5	年７回	未達成
基本施策４　生きることの促進要因への支援						
つながる体制づくり構築のための検討会議等の開催	H30	年０回	年３回	R5	年12回	達成

*自殺死亡率：人口10万人当たりの自殺による死亡数。

指標	ベースライン		目標	最終評価時		最終評価
	年度	数値		年度	数値	
本気で自殺したいと考えたことがある人のうち、心の健康に関する専門家や悩みの元となる分野の専門家に相談した人の増加(市民意識調査より)	H30	16.3%	30.0%以上	R4	13.0%	未達成
居場所づくり事業・団体数の充実	H30	10	15	R5	10	未達成
自殺企図者等の支援にかかる医療連携体制構築に向けた研修や意見交換会の開催数の増加	H30	年1回	年2回	R5	年3回	達成
これまでの人生のなかで、本気で自殺したいと考えたことがある人の減少(市民意識調査より)	H30	19.1%	16.0%以下	R4	20.3%	未達成
自分の気持ちを理解してくれる人がいると思う人の増加(市民意識調査より)	H30	71.8%	80.0%以上	R4	80.9%	達成
基本施策5 ライフコースに応じた支援						
SOSの出し方教育の実施	H30	未実施	実施	R5	実施	達成
悩みを抱えたり、友達が困ったりしているのを見かけた時にSOSを出すことができる信頼できる大人がいる中高生の増加(市民意識調査より)	H30	58.7%	80.0%以上	R5	75.6%	未達成
自分にはよいところがあると思う中高生の増加(市民意識調査より)	H30	72.1%	80.0%	R5	70.5%	未達成

(2) 生きる支援関連施策の評価

生きる支援関連施策事業の全199事業(再掲含む)を自殺対策の視点で達成度を5段階で評価した結果、事業の達成度が60%以上のものが193事業(97.0%)となりました。

計画策定時は全190事業(再掲含む)でしたが、新型コロナウイルス感染症流行下においては自殺リスクの高まりが懸念されたことから、令和2(2020)年7月に若者の日常的なコミュニケーション手段であるSNSを活用した自殺対策相談窓口「SNS相談@船橋」を、また令和3(2021)年12月には一般社団法人日本産業カウンセラー協会東関東支部と共催で「千葉無料カウンセリング船橋駅前総合窓口センター相談室」を開設して、自殺に関する相談支援体制の充実を図ってきました。さらに、性的少数者交流会事業等も新たに加わり、令和5(2023)年度には199事業(再掲含む)にまで増加しました。今後も生きる支援関連施策事業の充実に、行政、関係機関・団体と連携して取り組みます。

生きる支援関連施策事業の評価状況

施策	事業数	達成度				
		◎	○	△	×	終了
		80%以上 100%達成	60%以上 80%未満 達成	60%未満 達成	すべて中止 の場合 (評価不能)	事業終了の 場合
基本施策1 地域におけるネットワークの強化	2	2	0	0	0	0
基本施策2 自殺対策を支える人材の育成	2	2	0	0	0	0
基本施策3 住民への啓発と周知	11	9	2	0	0	0
基本施策4 生きることの促進要因への支援	91	74	15	0	0	2
基本施策5 ライフコースに応じた支援	60	49	10	0	0	1
その他の取組	2	2	0	0	0	0
関係機関・団体の自殺対策の取組	31	17	11	2	0	1
合計(事業数) (%)	199 (100.0%)	155 (77.9%)	38 (19.1%)	2 (1.0%)	0 (0.0%)	4 (2.0%)

